

神経系は人体の機能に直結する領域であり、脳・脊髄・末梢神経を個別に扱うのではなく統合的に理解することが大切です。本邦の脳神経外科では、脳疾患に加えて脊髄脊椎疾患や末梢神経疾患の外科治療も担っていますが、各施設の事情もあり、脳疾患治療に偏る傾向が強いです。研修医時代に脊髄脊椎・末梢神経疾患にも多くかかわることがこの統合的理解に大切ですが、残念ながらすべての脳神経外科医が理想的な環境で研修できているわけではありません。

しかし、日常の脳神経外科診療の現場には、脳疾患の患者に加えて脊髄脊椎・末梢神経疾患の患者が訪れます。苦手意識が大きいと『『頭』の中は問題ないですよ』と説明して、本疾患群を見落としてしまうことになりかねません。この「苦手意識」の原因について自身の研修医時代に思いを巡らせると、日常的に慣れ親しんだ脳疾患とは異なる独特の診断アプローチが必要なこと、同一疾患でさえもバリエーションが多いこと、個々の患者においても治療選択肢が複数存在することなどが挙げられました。他方、本疾患群の診断・治療に慣れ親しむようになると、これらの苦手意識の原因こそが醍醐味であり、面白さなのだと気づきました。自身のスキルで適切に診断・治療することで、目にみえて神経機能の改善が得られるため、とても大きなやりがいを感じている専門医も多いと思います。

これからの脳神経外科を担う先生方に向け、1人でも多くの読者に脊髄脊椎・末梢神経疾患の苦手意識を少しでも取り除き、その醍醐味・面白さを味わっていただきたく、本特集を「脊髄脊椎・末梢神経外科ことはじめ」と題し、基本事項の理解に注力した企画としました。第1章「脊髄脊椎・末梢神経外科のすゝめ」には、脊髄脊椎・末梢神経外科領域の魅力をお伝えする導入を設けました。第2章「脊髄脊椎疾患の基礎知識」では総論として、臨床と直結した脊髄の生理・解剖とこれらを元とした脊髄高位診断や術中モニタリングを取り上げました。第3章「頸椎変性疾患」、第4章「腰椎変性疾患」では、各論として頻度の高い基本疾患を主に扱い、第5章「末梢神経絞扼性障害の基本」では、末梢神経外科の概説と手根管症候群に絞り取り上げました。第6章「脊髄脊椎外傷・脊髄腫瘍・脊髄血管障害の基本」では、読者の気になるこれら疾患領域の基本事項に関する概説を取り上げました。

脊髄脊椎・末梢神経外科領域のエキスパートである執筆陣には、日々感じている本疾患群の診断・治療に関する魅力がにじみ出てくるような論文となるようご執筆をお願いしました。各論文に散りばめられた多くの魅力により醍醐味を認識・再認識いただき、1人でも多くの脳神経外科医に興味を抱いていただければ幸いです。また、皆様の診断スキルとご自身の手により、1人でも多くの本疾患患者の神経機能の改善が得られることも願って止みません。

竹島 靖浩，中瀬 裕之

奈良県立医科大学医学部脳神経外科